

英語 Here We Go! 相談室 教育

特集

言葉と心が離れない
—ストーリーのもつ力

Let's enjoy! Small Talk
週末の出来事

子どものためのBOOK GUIDE
LMNO Peas



“学びをワクワクさせるのは
デジタル教科書だ”



好評
発売中

光村図書 デジタル教科書&デジタル教材

商品
ラインナップ

◆令和2年度版小学校教科書準拠

—学習者用デジタル教科書[ユーザーライセンス]
Here We Go! 5・6 各550円

—学習者用デジタル教科書+教材[ユーザーライセンス]
Here We Go! 5・6 各990円

—指導者用デジタル教科書(教材)[学校フリーライセンス]
Here We Go! 5・6 各20,900円(1年間利用)

◆令和3年度版中学校教科書準拠

—学習者用デジタル教科書+教材[ユーザーライセンス]
Here We Go! ENGLISH COURSE 1~3
各990円

—指導者用デジタル教科書(教材)[学校フリーライセンス]
Here We Go! ENGLISH COURSE 1~3
各82,500円/27,500円(1年間利用)

—小学校英語デジタル教材 マスターシリーズ[学校フリーライセンス]

アルファベットマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

リズムマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

ワードマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

詳しい
商品情報は
こちら▶▶▶



小・中・高等学校教科書 訂正のお知らせ

教科書の訂正箇所をウェブサイトに掲載しております。
まことに恐れ入りますが、ご確認のうえ、ご指導の際には
ご留意くださいますようお願い申し上げます。



光村図書
LINE公式
アカウント
友だち募集中!



英語 Here We Go! 相談室
教育 | No. 11 |

2022年10月21日発行

発行人 ● 吉田直樹

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)

イラスト ● 小林 マキ

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

教育情報誌に関するお問い合わせ先

住所変更・配送停止 ▶ ej1@mitsumura-tosho.co.jp

ご意見・ご感想 ▶ koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

What's
this?

from
Guam



海に囲まれたグアム島。その北部には、有名な「スターサンド（星砂）」のビーチがあります。そして、島の南部には、世界中のたった数か所で見ることができないほど珍しい「グリーンサンド（緑の砂）」のビーチがあります。

このビーチの砂は、なぜ緑色に見えるのでしょうか。それには、今から約5万年前に起こったとされる火山の噴火が関係すると考えられています。このとき噴き出された火砕物には、緑色の「かんらん石」とよばれる鉱石が含まれていました。それが、長い年月をかけて荒波で細かく砕かれ、砂浜になったというのです。

グリーンサンドもスターサンドも、自然保護のため、許可なくその場から持ち去ることは固く禁じられています。

陣内真佐子／アメリカ合衆国領・グアム在住 海外書き人クラブ会員

写真のダウンロードは
こちらから



他にも、「グリーンサンド」と「スターサンド」のビーチの写真などを用意しました。授業などにご活用ください。



What's this?

グリーンサンドビーチ
<from Guam>

特集

02 言葉と心が離れない —ストーリーのもつ力

解説：太田 洋

06 実践紹介1 (小学校5年) 登場人物のストーリーを 自分ごとにして学ぶ

奥平明香

08 実践紹介2 (小学校5・6年) アニメでアフレコ

中島由美子

11 実践紹介3 (中学校1年) キャラクターへ手紙を書こう

増田 暢

連載

14 Let's enjoy! Small Talk [Lesson4]

週末の出来事
窪田 遼

16 子どものための BOOK GUIDE [第11回]

LMNO Peas
金原瑞人

言葉



と心が離れない
—ストーリーのもつ力

特集

解説：太田 洋（おお た ひろし）
（東京家政大学教授／小・中学校『Here We Go!』編集委員）

〔学習者のモチベーションになる〕

『Here We Go!』を使っている先生方からよく聞くのは、「子どもたちが授業を待たずに未習のUnitの動画を見ている」というお話です。ストーリーがおもしろいから、キャラクターが

好きだから、**何度も**見たくなる。ストーリーのもつ一番の力は、学習者のモチベーションとなることです。高い意欲はその後の学習につながります。

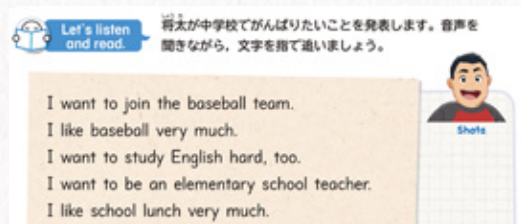


〔自分ならどうするかを考えるきっかけになる〕

小学校教科書で人気の将太^{しょうた}は、6年Unit 9のLet's listen and read.の中で“I want to be an elementary school teacher.”と言っています。理由は、“I like school lunch very much.”だから。なんとも将太らしい答えですね。

自分の友達のような登場人物に共感することで、しだいに「自分ならこんなふうに答えたい」という気持ちが子どもたちに芽生えていきます。学習後に、“How about you?”と子どもたちに問いかけてみてください。ストーリーを

通した豊かなインプットは、**自分なりの答えをアウトプットするきっかけになります。**そのきっかけを活用していきましょう。



小学校『Here We Go!』
6年Unit 9 Junior High School Life

『Here We Go!』のストーリーは、登場人物がさまざまな体験を通して成長していく、共感しやすい内容です。そのため、英語に抵抗がある児童・生徒でも、繰り返し読んだり聞いたりすることができます。今号では、ストーリーのもつ力について、改めて迫ります。

〔言葉と心が離れない〕

中学校教科書2年Unit 2で、スポーツの得意なハジンは、光太郎^{こうたろう}にバスケットボールを教えています。ハジンはバスケットボールが苦手な光太郎を“No problem.”“Don't worry.”と励まします。**目的や場面・状況**に合った、とても自然な発言ですね。ストーリーがあって共感しやすい場面があるから、子どもたちの頭に言葉が自然と入る。言葉と心が離れない学習ができます。そして、これらの言葉は体育の授業などですぐに使えるフレーズでもあります。



中学校『Here We Go!』
2年Unit 2 Basketball Tournament

〔推測して聞く力が育つ〕

ストーリー、キャラクターに親しみをもって繰り返し視聴する。**わからないところがあっても、推測しながら聞く。**これは小・中学校で共通した有効な学習法です。小学校の段階で、「キャラクターの性格などから推測して聞く」「わか

らないところは気にせず、わかるところから推測する、曖昧さに耐える」という力を身につけておくと、より多くの英語表現と出会うことになる中学校での学習に役立ちます。また、その力は一生涯のものとなるでしょう。



小学校『Here We Go!』
5年Unit 3 What do you have on Monday?



中学校『Here We Go!』
2年Unit 5 Earthquake Drill

小・中で
共通した
キャラクターも
登場します。

小学校

『Here We Go!』のストーリーを彩るキャラクターたち

小・中で共通するキャラクター

将太

ひょうきん者で、おおらかで、食いしん坊。野球が大好き。



リリー

オーストラリア出身。人との触れ合いが好き。ダンが自分のヒーロー。



結衣

しっかり者で負けず嫌い。英語の他、中国語も少し話せる。夢は宇宙飛行士。



和希

一人っ子で将太と幼なじみ。控えめで、もの知りの性格。夢はロボットクリエイター。



アーシャ

インド出身。6年生のときに転校してきた。もの静かで思慮深い性格。将来の夢はまだないがゲームクリエイターに興味がある。



ニック

アメリカ出身。動物好きで好奇心旺盛。夏休みの思い出は、家族でキャンプをしたこと。ティナの弟。



5年Unit 3
What do you have on Monday?

ティナ

ニックの姉。快活で元気いっぱいだけど、ちょっぴり落ち込むときもある。友達思いのがんばり屋。



1年Unit 3
Enjoy the Summer

絵里

Kotaの幼なじみ。道に迷っていたティナに最初に声をかけるなど、積極的で、困っている人を放っておけないタイプ。



光太郎

ニックネームはKota。引っ込み思案だったが、友人たちの影響を受けて、一人でニューヨークへ行くまでに成長。



ハジン

1年生の2学期に韓国から転校してきた。スポーツ万能で親切。絵里とのやり取りに心ときめかせる生徒も多いのでは。



中学校

太田先生のお気に入り場面



6年Unit 3
What do you want to watch?

オリンピックをリリーの家で見ている6人。みんなは将太に、どのスポーツを見たいかききます。リリーに伝えた答えは“I want to watch surfing with you.”。リリーが好きなサーフィンを一緒に見たいという、将太の優しい気持ちが伝わりますね。



ダン

リリーの兄。車椅子バスケットボールの選手で、優しく行動的な性格。



アナ

プエルトリコに住むニックのいとこ。美しい島で楽しく生活している。



ブラウン先生

オーストラリア出身の英語の先生。4人のよき相談相手。

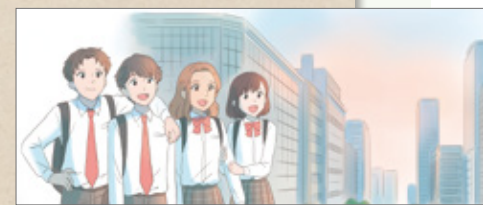


星野先生

山登りが趣味の体育の先生。花を愛する優しい一面も。

太田先生のお気に入り場面

広島への修学旅行へ出かけたティナたち。そこで小さなトラブルが発生します。それを乗り越えた4人が見上げた空には見事な夕焼けが。このときの光太郎のセリフ “I’ve never seen such a beautiful sunset.” には、グッとくるものがあります。



3年Unit 2
Our School Trip

実践紹介1 (小学校5年)

登場人物の ストーリーを 自分ごとにして学ぶ

おく ひら さやか
奥平明香

沖縄県豊見城市立ゆたか小学校 教諭
(5学年担任・5学年外国語専科)

外国語で、聞くことの活動の先にあるものは、
ずばり「人を知る楽しさやおもしろさ」でしょ
う。登場人物のキャラクター設定を探りながら
『Here We Go!』のアニメーションを見ること
で、ストーリーの展開を楽しみながら視聴する
子が増えました。私自身、ストーリーの内容か
らSmall Talkを展開させたりして、子どもた
ちと一緒に登場人物の人柄を想像して楽しんで
います。ここでは、私自身が行った5年生1学
期の活動を振り返ってみたいと思います。

「教科書の中にも、お友達がいるよ!」

ストーリーの世界観に引き込むため、まずは、
「出会わせ方」にひと工夫しました。5年生の
Unit 1は、自己紹介の単元です。新しいクラス
の友達や先生とのやり取りを十分に行った単元
の後半で、教科書を導入しました。

「これまで、自分の好きなもの・ことについ
てたくさんやり取りしてきたね。実は、教科書
の中にもみんなと同じ5年生のお友達がいるよ。
自分に似ている子、気が合いそうな子、誰かに
似ている子がいるかも」。そう言うと、「えー!
どんな子? 何名? どこの国の人?」と、子ど
もたちの「登場人物を知りたい」という気持ち

が膨らみました。こうして、第6時にして初め
て、聞くことの活動を取り入れました。やり取
りを十分に楽しんできた経験から「どんな子た
ちがいるか知りたい!」という気持ちが高まっ
ていたようです。

Unit 1 Hello, everyone. 「どんな子かな?」

「どんな子か知ろう。気が合いそうな相手は誰
かな?」と、聞くことの目的を設定し、セリフ
を聞いてわかったことを漫画のように吹き出し
でメモ書きできるようなワークシートを配布し
ました。そこにニコちゃんマークの自分自身を
登場させ、子どもがその場で二人の会話を聞い
ているイメージがもてるように工夫をしました。
下のシートでは、登場人物の和希とリリーの出
会いの場面で、名前やスペルを伝え合うやり取
りを聞いて、子どもは自分自身の名前やスペル、
挨拶をつづやいています。



子どもが記入したワークシート

登場人物たちの会話からSmall Talkへ

「食べ物」は、子どもたちに大人気のトピック
です。授業の初めに行うSmall Talkでは“What's
Lily's favorite fruit?” “How about Nick?”と、
登場人物のことについてクラス全体に尋ね、答
えを引き出します。そこでさらに“I love mangoes!
How about you? ○○ san?”と教師自身のこ
とを話したうえで、数名の児童に尋ねます。や



子どもどうしでのやり取りの様子

り取りへの不安が薄まった頃合いを見て“Any
volunteers?”とチャレンジャーを募り、席が離
れている子どもどうしでペアを組ませました。
いつもと違う相手とドキドキしながら、好きな
フルーツについてやり取りをする様子には、5年
生ならではの初々しさが光ります。緊張しなが
らも外国語でわかり合えたうれしさ、マスクの
下の大きな笑顔が見えるようでした。

Unit 3 What do you have on Monday?

Unit 3のトピックの一つである、好きな教科
を尋ね合うやり取りでも、ストーリーの内容
からやり取りを展開させました。「次の日、体
育があると思っていたのに勘違いだった」とい
うニックのエピソードに、クスクス笑う子ども
たちの反応を生かしました。“What subjects
does Nick like?”と尋ね、子どもたちから“Arts
and crafts and calligraphy.”という答えを引き
出しておいとうえで、“That's right. But, what
is Nick's favorite subject? Anything else?
What do you think?”と投げかけて、ストー
リーを深読みさせます。子どもたちは、体育がな
くて残念がるニックのセリフや表情から、「本
当に好きな教科はきっとP.E.だよ」「僕の周り
でもP.E.が大人気だし、同じ5年生だから、一
番は体育だと思う」などと、これまでの友達と
のやり取りで知れた状況とも重ねて考えなが
ら発言し始めます。しめしめと思いながら、こ
こで「じゃあ、クラスで人気の教科を尋ね合

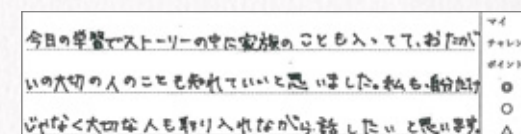
う」と、やり取りを行いました。プール学習の
真っただ中だったこともあり、子どもの予想ど
おり、今回は体育が大人気でした。

Unit 2 When is your birthday?



Unit 2の授業の板書

「誕生日」を扱うこの単元は、沖縄県の慰霊の
日へ向かう平和学習と関連させ、「生命尊重」と
リンクして学ぶことでより深い学びにつながる
と考え、学習時期をUnit 3と入れ替えて行いま
した。『Here We Go!』のストーリーでは、ニッ
クの母親が登場したり、和希の母親がリリーと
同じ誕生日であったりと、「お母さん」の登場が
あるのも魅力です。それを生かし、“When's your
mother's birthday?” “When's your grandma's
birthday?”と尋ね、自分が家族の大切な一員で
あることや、生命のつながりを感じ取ることが
できるようなSmall Talkを展開しました。



第2時の振り返りの記述

子どもたちの感性や発想を生かして

小学校外国語科では、相手を知る楽しさを味
わいながら英語を学びます。今後も魅力あふれ
る登場人物やストーリーの世界観を楽しみなが
ら、子どもたちとクリエイティブな学習を共創
していきたいと思っています。

実践紹介2 (小学校5・6年)

アニメでアフレコ

なかしま ゆみこ
中島由美子
宝仙学園小学校 教諭

本校では、「ICTは学びの道具」とし、全教育活動において1人1台端末の利用を数年前から進めてきました。英語の授業でもあらゆる場面でiPadを使用しています。子どもたちもかなり使い方に慣れており、さまざまな活動で自立してiPadを活用しています。

アニメーション動画を活用

このような環境の中で『Here We Go!』のデジタルコンテンツは、本校の英語活動にとってもマッチしていました。特に各Unitに付随している2～3分程度のアニメーションはとても質が高く、ターゲットとなる単語・表現がふんだんに含まれています。また、ストーリーがしっかりしており、自然な英語が会話表現として使われているため、英語が苦手な子どもにとっても



個性的で親しみやすいキャラクターとストーリー

内容が追いやすくなっています。そのアニメーションに登場するキャラクターが、それぞれとても個性的で、Unitを通してずっと登場するので、子どもたちも親しみを感じているようです。

しかしながら、せっかく自分のiPadでいつでもアニメーションを観ることができる環境にあるにもかかわらず、授業以外で観る機会は少ないようでした。アニメーションを繰り返し観ることで、学んでほしい単語・表現を定着させたいと思い、なんとか自発的にアニメーションを観てくれないものかと考えていました。

アフレコ活動

そこで思いついたのが、そのアニメーションに登場するキャラクターの口の動きに合わせて声を吹き込むこと(アフレコ活動)でした。英語劇などと違って、小道具を作ったり、舞台を用意したりする必要はありません。アフレコだと声を入れるだけなので、子どもたちもセリフにだけ集中できます。また、人前で話すのが苦手な子どもも、アニメーションの中に出てくるキャラクターになりきることで、大胆に演技できます。アフレコとなると、ただセリフを言うだけでなく、感情も大きく表現しなくてはいけませ



こちらから、実際に作成された作品を見ることができます。



アフレコ活動に取り組む子どもたち

ん。さらにアニメーションの口の動きに合わせてはいけなないので、何度も練習することになり、流暢さが身につきます。そしてなんといっても、アニメーションを繰り返し観るという本来のねらいが簡単に達成されます。子どもたちは自分のセリフを練習するため、また友達とタイミングを合わせるため、何度も何度もアニメーションを観ることになり、楽しく自然な形でターゲットの単語や表現を学んでいきます。グループ活動となるので協動的な学びにもつながりやすくなります。事実、グループの中で英語の得意な子が、少し不得手な子どもに一生懸命教えている様子が散見されました。まさに学習者中心の活動といえます。

フィードバック

それぞれのグループのアフレコ作品ができあがると、今度はそれをみんなの前で発表します。といっても、声を入れたアニメーションを流すだけなのですが、これがとても盛り上がります。観終わった後はそれぞれの作品に対して、みんなフィードバックを行い、最後に優勝グループを投票で決定します。このフィードバックを通してそれぞれが学んだことを生かし、また次のUnitの新しいアニメーションのアフレコに挑



作品の発表会はいつも大盛り上がり

戦します。このインプット(アニメーションを観る)とアウトプット(アフレコをする)、フィードバック(友達からフィードバックをもらう)のサイクルは今後の学習に生きていきます。

アンケート結果

この活動を通して、日頃は英語への苦手意識をもっている子どもがとても活躍しているなど、普段とは違う面を垣間見ることができました。活動の後でアンケートを取ったところ、56%が「とても楽しかった」、12%が「楽しかった」、20%が「まあまあ楽しかった」と答えていました。また「自分の英語力がアフレコを通して伸びたか？」に対しては12%が「とても伸びた」、23%が「伸びた」、37%が「まあまあ伸びた」と回答していました。教科書の理解度に関しては、77%近くがアフレコ活動の後で「以前より教科書の内容が理解できるようになった」と回答していました。そして、多くの子どもが「次のUnitに移った際に注意深くアニメーションを観るようになった」と答えていました。

エピソード

『Here We Go!』6のUnit 3 What do you want to watch?では、オリンピックをテーマにそれぞれのキャラクターが、どの競技を見たいかを話しています。その中で、将太は「どの競技が見たいの？」と友達にきかれます。将太は、オーストラリア出身のリリーに「君とサーフィンが見たいんだ」と答えます。教室は、二人の関係性についての話で大はしゃぎです。そのUnitのアフレコをするにあたって、誰が将太とリリー役を演じるのかで大騒ぎになると思っていたところ、なんと、男子が高い声を使って

リリーの役を演じているグループがありました。これには教室中が盛り上がりました。

私もそのアイデアを楽しませてもらったと同時に、子どもたちが話の内容を理解して楽しんでいることに感心しました。声を当てた作品の中には、プロの声優が演じているのではと思うほどに高いレベルのものもあり、期待をはかに超える子どもたちの力に感動しました。

アフレコ活動の教材の作り方

子どもが声を当てる動画は、『Here We Go!』の学習者用デジタル教科書から視聴できるアニメーションを加工して作成しました。iPadで、アニメーションを字幕付き状態で再生し、それをiPadの「画面収録」機能で録画します。この手順で、字幕付き音声なしのアニメーションを作成することができます。それを本校では、クラウド型授業支援アプリのロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)を使ってそれぞれの子どもに配布しました。その際には、台本として、『Teacher's Book』(指導書)に掲載されているセリフのスク립トもコピーして配布しました。

子どもたちは音が入ったアニメーションを自分の端末で観ながら練習した後、グループごとに配布された、音が消されたアニメーションに自分たちの声を入れます。ロイロノートには声を簡単に録音できる機能があるため、それを使用します。

録音したデータはロイロノート上で提出させ、それを教師のiPadからスクリーンに映してみんなで鑑賞します。

この一連の操作は、慣れれば問題なく行うことができます。

途中で間違えたときのことを考えて、1シーンごとに録音をして編集するという工夫をするグループも出てきますが、基本的にはワンテイクで撮るように伝えています。これは子どもたちにはかなり大変な作業で、途中で誰かが失敗するとまた初めからやり直しとなるので、緊張感をもって取り組んでいました。

アフレコ活動は、楽しみながら繰り返しストーリーを学べる方法の一つです。また、友達と協働で何かを作り上げることで、自己肯定感の向上にもつながる活動でないかと考えています。

アフレコに使用する動画の準備、録音方法(iPad)

- 1 「設定」>「コントロールセンター」と選択してから、「画面収録」の横にある $\oplus$ をタップします。
- 2 iPadの画面右上からスワイプしてコントロールセンターを表示させ、 $\odot$ をタップします。3秒間のカウントダウンの後に録画が始まります。
- 3 アニメーションを字幕付きで再生します。
- 4 録画を停止するには、コントロールセンターを開き、 $\odot$ をタップするか、画面のいちばん上にある赤いステータスバーをタップし、「停止」をタップします。
- 5 コントロールセンターを開き、 $\odot$ をロングタップします。「マイク」をオンにして「収録を開始」をタップします。①～④で作成した動画を再生してアフレコを行い、音声を録音します。

※ iPad以外の端末でも、基本的な機能を使用して動画を準備することは可能です。

実践紹介3(中学校1年)

キャラクターへ手紙を書こう

ます だ みつる
増田 暢

神奈川県座間市立座間中学校 英語科教諭

本校では令和3年度から『Here We Go!』を使用しています。小学校外国語で多くの音に触れてきた生徒たちには、文法よりも内容から入るのがよいと考え、授業の冒頭では毎回、デジタル教科書収録の「本文ドラマ」(実写動画)を見せることにしました。「ティナはなぜこんなことを言うのだろう」「この二人は恋しているのでは」など、英語や日本語で意見を交わしながら、キャラクターが展開するストーリーに生徒たちはすっかり引き込まれています。

「ごっこ」ではない、本物の手紙を

実写動画の中のキャラクターのささいなしぐさや、言葉遣いなど、生徒たちはこちらが気づかないような細かなところに反応し、盛り上がります。1年生3学期に入る頃には、それぞれのキャラクターに親近感がわいてきたようです。おそらく、彼らを自分たち自身に置き換えて見ているのでしょう。ストーリーに夢中になるにつれて、英語が好きになる生徒が増えてきたことを実感しました。

そんな折、1年Unit 7のゴール活動で「冬休みの楽しい出来事を伝えよう」という課題に行き当たりました。「英語で手紙を書く」という

課題です。当初は、教科書に示されていたとおりに、ALTへ宛てた手紙を書かせる授業計画を立てていましたが、ALTには以前にもお礼の手紙を送っていたことを思い出し、この活動に何か味気ないものを感じ始めました。ALTに代わる誰か、本当の誰かに宛てた手紙を生徒たちが書く方法はないだろうかと日々模索していたところ、活動のヒントを求めて視聴していたあるDVDの中で出会った「単なる『ごっこ』じゃ、子どもたちは乗ってこない」という言葉に深く感銘を受けたのです。「ごっこ」じゃない活動とは何か、生徒たちにとってのリアルとは何だろうと考えたときに、ふと、生徒たちがいつもハラハラドキドキしながら見ている実写動画の登場人物、教科書のキャラクターたちに宛てて手紙を書いてはどうかというアイデアが思い浮かびました。

簡単な英語で相手に伝えよう

1年生の3学期、3月の授業でした。「TinaやHajin、EriやKotaに手紙を書いてみよう。もしかしたら返事がくるかもしれないよ」と伝えるところ、生徒たちは大喜び。「ねえ先生、それって本当?」「よし、書くぞ!」と、たいへん積極的な反応を示しました。「簡単な英語で相手に伝えよう」と声をかけ、授業時間の最後の10分を帯活動として取り組ませました。生徒たちは1人1台のICT端末(Chromebook)を駆使しながら、わからない英語の表現を調べて、なんとか伝わる英文を書こうと熱心に取り組んでいました。その様子を見ながら、「これが主体的に学ぶ態度の^{かんよう}涵養ということなのかもしれない」と感じたものです。

生徒たちの手紙の大部分は、一度、教科書に

出てきた英語の表現を使って、内容を自分のことに置き換えて書かれています。教科書のターゲット表現は、一度教えれば生徒がすっかり理解しているということにはなりません。それまでの1年間、教科書で学ぶたくさんの表現を生徒が使いこなせるようになるために、何度も以前のターゲット表現に戻って使うことを繰り返していました。その体験が、この手紙を書く際に生きたのかもしれない。飾りのない平易な表現を使って、イラストを添えるなどの工夫をしながら、自分の冬休みの出来事を伝えようとしている生徒が多いようでした。

手紙の宛先には、メインキャラクター4名の他にも、Tinaの弟Nickや、中にはリスニング活動で1回きりしか出てこなかったような人物が選ばれたりしていて、生徒たちがいかにストーリーの世界に引き込まれているかを実感しました。

さあ、手紙を送ろう

ついにキャラクターへの手紙ができあがりました。「表紙がないと相手に失礼かもしれないね」と投げかけたところ、何人かの生徒たちから「キャラクターの似顔絵を描きます」という声が上がりました。できあがってきた表紙には、キャラクターの似顔絵が愛情たっぷりに描いてあって、見ている私もうれしくなりました。仕上げにリボンをつけて、完成です。

手紙を光村図書に送ってしばらくたつと、なんと返事が届きました。生徒たちに伝えと、大喜び。それぞれのキャラクターからの手紙を、目を輝かせて読み入っている姿に、この活動を行ってよかったと心から思いました。



生徒が書いた手紙の一部(表紙)

キャラクターは生徒たちの友達

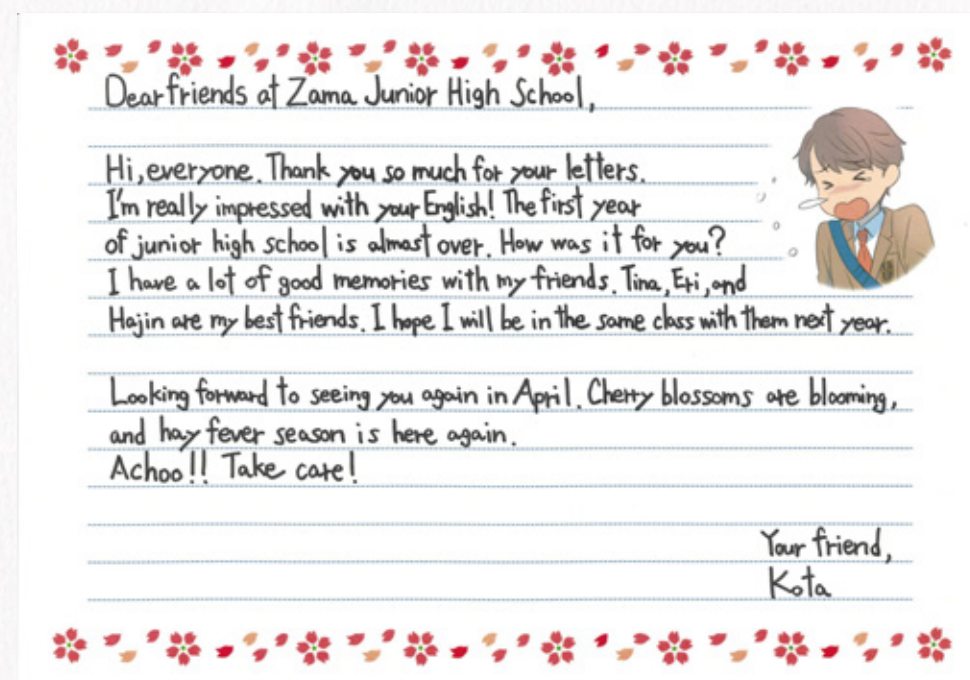
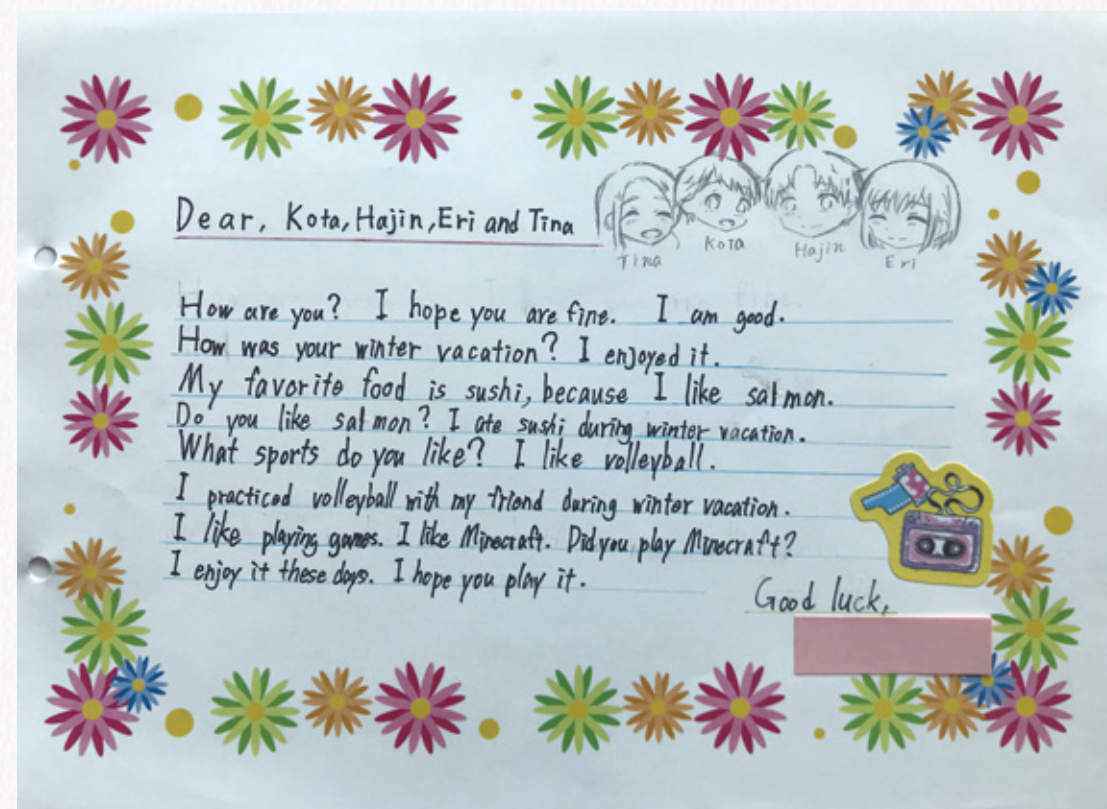
英語の授業では、英文法をしっかりと教えて、英文を読んで終わり、となる傾向があるように思います。それは多くの教師自身が教わってきたやり方なので、なじみと安心感があります。でも、本当にそれでいいのでしょうか。それがゴールとなってしまっていないのでしょうか。教科書の内容を理解して終わりではなくて、その先に「あなたならどう思うか」「これはどう思うか」などと意見を交わすことにつながる授業にしていきたいと考えています。

そう考えたとき、『Here We Go!』のキャラクターは、生徒たちの発話を引き出すきっかけになると感じています。今回実践した、キャラクターへ手紙を書く活動は、単なる英作文を超えた「英語で本当の自分の気持ちを表現する」活動になったと思います。それはきっと、生徒たちにとって、キャラクターと一緒に英語を学ぶ友達のような身近な存在だからなのでしょう。

英語教師としては、いつか生徒たちがみんなで動画を見て盛り上がったり、意見交換をしたり、手紙を書いたりしたことなど、中学校の英語の授業を思い出してくれたら、とても幸せに思います。

生徒たちの作例 /

こちらから、他の作例を見ることができます。



生徒たちに届いた返事の一部

Let's enjoy! Small Talk Lesson 4

〔本日のトピック:週末の出来事〕

株式会社イーオン 窪田 遼

はじめに

Hello, everyone. I hope you are all well.
今回は、『Here We Go!』6 Unit 4 My Summer Vacation で学習した表現を使い、児童どうしが対話することを通して、復習と定着を図るような Small Talk をご紹介します。児童どうしの対話では、より丁寧なサポートが必要となるため、その在り方についても考えてみましょう。

今回のトピックとねらい

このUnitでは、夏休み明けの9月に「夏休みの出来事」について話すことが想定されています。ただ、この話題は、9月半ばを過ぎると時期外れとなり、扱いづらくなってしまいます。そこで今回は、この応用として、同じ表現を使って「週末の出来事」について話すという Small Talk をご提案します。同じ表現で、異なるトピックについて話すというスモールステップは、小学校英語にも適しているといえます。

さて、6年生のこの時期は、3年生からの積み重ねを基礎として、児童どうしの対話を中心とした Small Talk に挑戦できることが理想です。そこで、ここでは、そうした積み重ねを前提としながら、既習表現を使った対話とそれを自然に続けることをねらいたいと思います。

児童どうしの対話を続けるために

対話に必要な要素は主に、①トピック、②質問、③応答、④反応(リアクション)です。今回、①トピックは「週末の出来事」。④反応については、前回は触れた「対話を続けるための基本的な表現」(*)に示された例などを、日ごろ、児童に会話例を見せるときなどに意識して使うようにします。②質問と③応答としては、主に、“How was your ...?” と “It was” の二つが、復習して定着させたい表現です。

対話を続けるには、②～④の後に、さらに②～④を循環させます。この時期の児童は、既習表現が増えて、対話を続ける準備が整いつつありますが、まだまだサポートが必要な段階でもあります。指導者によるサポートとしては、児童が話すべき内容を事前に想起させることや、適切な質問・応答のしかたについて既存の知識から事前に引き出しておくことなどが考えられます。

Small Talkの流れと言葉かけの例

▼STEP1:トピックの導入・話す内容の想起

- ・ How was your weekend?
- ・ Who had a nice weekend? / Who had a bad weekend?

- ・ Who stayed at home? / Who went out?

▼STEP2:タスクの導入

- ・ Let's talk about last weekend.

▼STEP3:話し始め方の引き出し・表現の導入

- ・ First, please say, / How can you start your conversation?

【引き出したい表現例】

Hi. / Hello. / How are you?

▼STEP4:トピックに合わせた質問の引き出し・既習表現の再提示

- ・ Then, ask about last weekend. What questions can you ask? / You can ask,

【引き出したい表現例】

How was your weekend?

▼STEP5:対話を続けるための質問の引き出し・提示

- ・ Let's ask more questions. For example, / Can you ask more questions? Any ideas?

【引き出したい表現例】

What did you do? / Where did you go? / How was it? / Did you like it?

▼STEP6:教師どうし、教師と児童による対話の例示

- ・ Let me show you. / Just like this. / For example,

▼STEP7:Small Talkの実施

- ・ Now it's your turn.
- ・ Make pairs. / Make groups of 4.
- ・ Ask about the weekend to each other.

例1 Small Talkの導入

T1: Hi, everyone. How was your weekend, last Saturday and Sunday?
Who had a nice weekend? Who had a bad weekend? Raise your hands.
Who stayed home? Who went out? I see. Great.
Let's talk about last weekend.
Let's ask questions to each other.
First, please say "Hi." to your partner.
Then, ask about last weekend.
What can you ask?

Ss: How was weekend?

T1: Good try! You can ask, "How was your weekend?"

Let's ask more questions. For example, "Where did you go?" Any other ideas?

Ss: What did you do?

T1: That's a great idea. Please ask those questions to each other.

Let me show you an example.

Gordon, could you be my partner?

T2: Sure.



Small Talkの例2
(T2との対話によるモデル)の
原稿および例1・2の音声は
ウェブサイトにて公開中

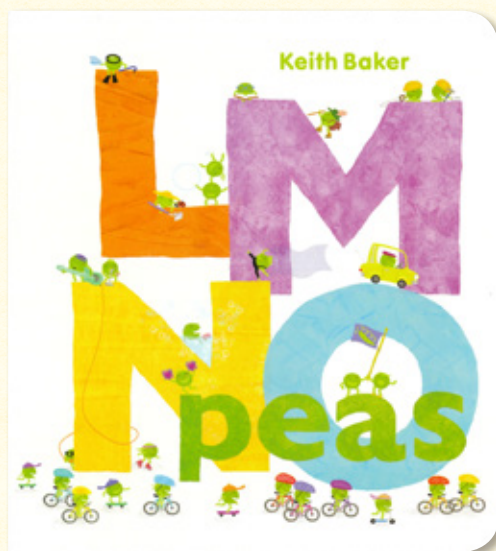
窪田 遼 くぼた・りょう
株式会社イーオン 法人事業本部
学校教育課 専任講師

留学経験なしでイーオンに入社し、イー
オンスクールでの教務主任を経て、2016
年6月より現職。
全国の自治体での教員研修を担当。特に、
小学校教員への指導には定評がある。
J-SHINE 小学校英語指導者資格保有。



子どものためのBOOK GUIDE

— 11 —



LMNO Peas

著者: Keith Baker
出版社: Simon & Schuster

これはA Classic Board Bookシリーズのうちの1冊。Board Bookというのは厚紙の本で、多くは幼児向けの絵本です。そう、これは幼い子にAで始まる単語、Bで始まる単語、Cで始まる単語……を楽しく教える絵本。それも、「～する人」の英単語が並びます。

ただ、Aからいきなり、We're acrobats, artists, and astronauts in space. とハイレベルな単語。Nのnursesはいいとして、Oのoutlawsはいささか物騒。Qのquilters やquarterbacksは中高生にも難解。Zのzoologistsにいたっては大学生でも無理。

もちろん、英語圏の幼児がみんなこんな言葉を覚えさせられるわけではなくて、これは単なる遊び。わざと、こむずかしい単語も混ぜてあるわけです。こましかった幼児がかっこつけてWe're yogis in a pose. とか言っていると、きっと受けますよね。そのうえ、このWe'reのWeが誰かという、タイトルにあるPeas(エンドウ豆)。

いってみれば100%受けねらいの絵本なのですが、ちょっとだけお勉強をするなら、「～する人」の語尾でしょう。builder / bathers / biker / climber / camper など、BとCだけで「動詞+er」がこんなに出てきます。あと、数は減りますが、inventor / investigator / sailor など「動詞+or」も出てきます。

最後に一つ、Wのところの、We're weavers, wishers, and X-ray doctors, too. のweaverは「編む人、織る人」、X-ray doctorは「X線技師」でいいのですが、問題は真ん中のwisher、「祈る人」です。絵の中の4人(4個)のエンドウ豆は井戸の周りで何をしているのでしょうか。実は、ヨーロッパには「願かけ井戸(wishing well)」の伝説があって、ここにコインを投げ込むと願いがかなうといわれているのです。この絵、よく見ると、金貨を投げ込んでいるのがわかります。

さて、語彙のレベルは高いけれど、読んで楽しい、絵が楽しい、少しお勉強になるBoard Book、最後のページがまた楽しい。WHO ARE YOU?

金原瑞人

かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど600点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。

令和5年度

「言語教育振興財団」

研究助成金一般公募の

お知らせ

助成内容

- ①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門)
- ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門)
- ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)

研究期間

令和5年4月～令和6年3月(原則1年間)

応募資格

言語教育(国語、英語、日本語、道徳等)に関して研究開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見なされる団体及び個人

助成件数及び金額

- ▶助成件数は60件程度
- ▶助成金額は1件につき原則として、学校・団体20万～35万円、個人15万～25万円

助成金使途の制限

- ▶助成金の使途は、研究に直接関係するものに限ります。インフラ整備のための機器・物品購入は対象となりません。研修出張費は、交付額の30%を限度とし、研究に関係しない研修出張費は助成の対象とはなりません。

一般財団法人「言語教育振興財団」では、令和5年度も小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象として、今日の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成を行います。

応募方法・締め切り

- ▶研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、令和4年12月20日(火)必着で、当財団事務局に郵送してください。
- ▶「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手(120円)を同封のうえ、当財団事務局までお申し込みいただくか、財団ウェブサイトから申請書をダウンロードのうえ送付してください。

決定・発表・交付

令和5年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は3月末までに文書にて通知します。ただし、選考結果の内容は公表しません。交付は、4月末までに指定された金融機関に振り込みます。

問い合わせ先

一般財団法人
言語教育振興財団 事務局

〒141-0021

東京都品川区上大崎2-19-9

TEL&FAX 03-3493-7340

E-mail: gengo-k@star.ocn.ne.jp

※詳細につきましては、財団のウェブサイト(<https://gengo-k.jp>)をご覧ください。

